

1. 短期予測 (p. 1)

- ①[ニッポン放送から始まる大 M&A ブーム]
- ②[野村＝ロスチャイルド：東京三菱＝メリル]
- ③[石油価格高騰の政治経済的効果]
- ④[米保守本流とネオコンの棲み分け]
- ⑤[李前台湾総統と会見]

2. 展望①株式＝M&A ブームの到来 (p. 5)

- ・新規上場、優良企業の株価上昇、外資による日本企業買収等をエネルギー源として、株式投資の大ブームが来ようとしている。
- ・この株式ブームは、日本政府の財政破綻が表面化する2008年までは続くであろう。

3. 展望②ブッシュ政権内力学構造の変化と 米国の対中東 政策

(p. 11)

第一期と第二期ブッシュ政権の違いを、閣僚人事から判断すると、その最も大きな違いは、第一期政権においてブッシュ大統領のヴィジョンや方針にいくらかでも批判的な態度をとり、政権内の一体性を壊したものが、第二期政権では全員去ったという点である。

4. 展望③中東情勢とロシア (p. 20)

第二期ブッシュ政権がスタートした。ブッシュ第二期の外交上の最大の焦点は、イスラエルとパレスチナの和平交渉にある。この中東和平を実現すべく、ブッシュ大統領は「テロリストをかくまい、大量破壊兵器を求める政権とは対決する」と語り、テロ支援国家としてシリアとイランを名指しする。一方、そのシリア、イラン両国との関係を深めているのがロシアである。

ケンブリッジ フォークキャスト グループ 〒133 江戸川区西小岩1-30-5

TEL

03-3650-1475

FAX

03-3650-7873